

August 19, 2008

CODE : 9702



Corporate Presentation

2008年12月期(第39期) 中間決算説明会

株式会社 **アイ・エス・ビー**

<http://www.isb.co.jp/>



1. 会社概要
2. 中間決算の説明と今期通期予想
3. 今後の事業戦略および中期経営計画



1. 会社概要

2. 中間決算の説明と今期通期予想

3. 今後の事業戦略および中期経営計画



会社概要

商号



株式会社 **アイ・エス・ビー**
I S B CORPORATION

経営理念

いつでも・どこでも・だれでも活用できるユビキタス社会に貢献

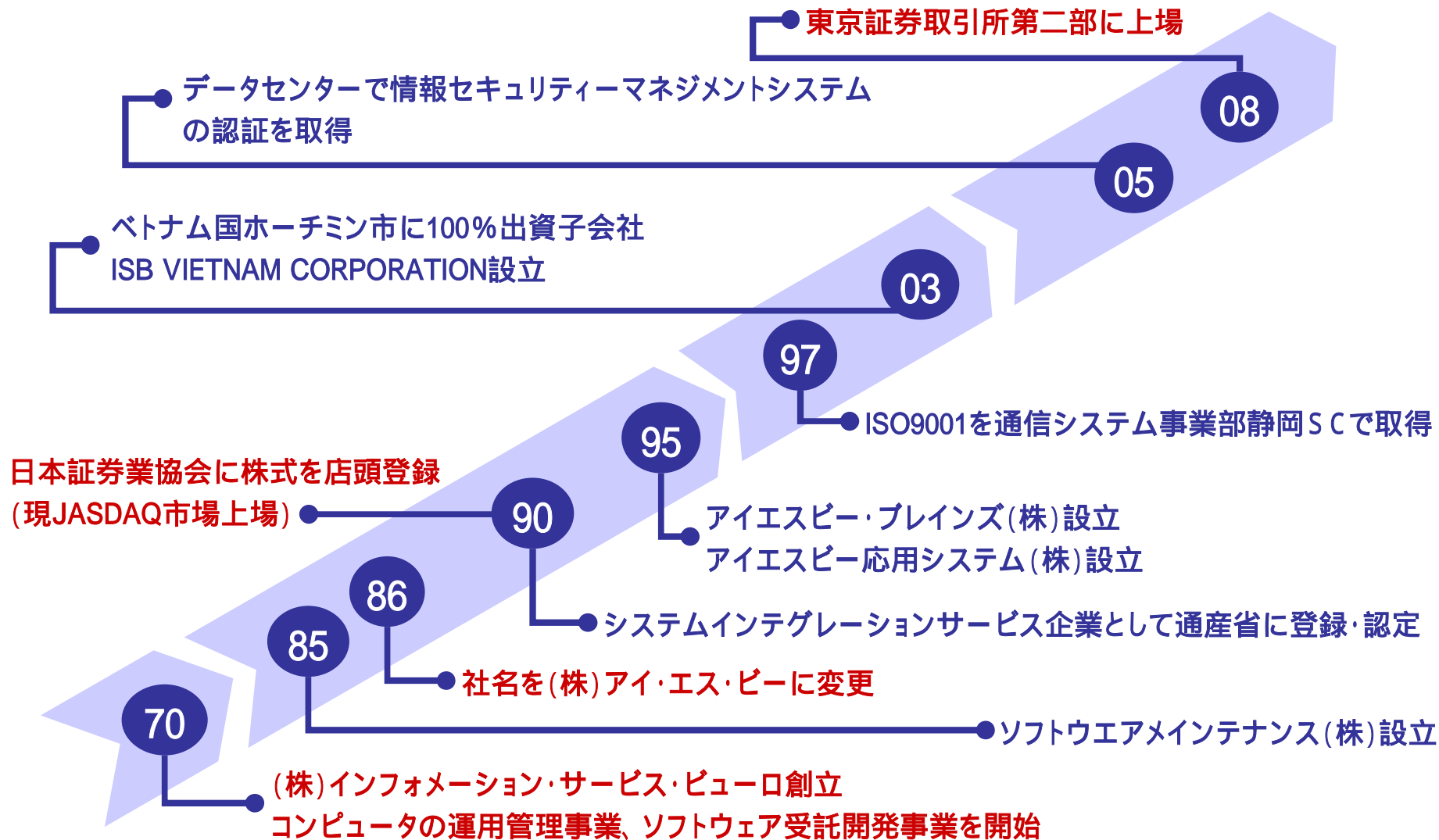
「卓越した技術とサービス」

世界の進歩発展と豊かな社会の創造に貢献いたします

設立	1970年 06月 04日	資本金	14億4,060万円 (12月決算)
発行済株式総数	4,521,000株 (100株単位)		
代表者	代表取締役社長 若尾 逸雄		
事業所	本社・新横浜事業所・三島事業所・甲府事業所・我孫子事業所・大阪事業所 鳥取事業所・五反田事業所・アイ・エス・ビー データセンター		
収益セグメント(連結)	事業セグメント	事業内容	
	・携帯端末	携帯端末の組み込み系ソフトウェア開発、アプリケーション開発	
	・インフラ	モバイルに関わる通信インフラ機器装置、及び開発支援ツールの開発	
	・検査	携帯端末及びインフラ(基地局・交換機等)の検査業務	
	・組み込み	医療、車載、家電等モバイル以外の組み込み系ソフトウェア開発	
	・情報サービス	主に、官公庁・公共・自治体向けソフトウェア開発・運用	
	・金融	基幹システム、勘定系、為替、融資等のコンサル、ソフトウェア開発・運用	
	・フィールドサービス	インフラの設計・構築・保守・データセンターサービス等のシステム運営	
	・新規事業	自社開発アプリケーション、プロダクト提供	
従業員数(連結)	856名 (07年12月末 811名)		
取引先	エレクトロニクスメーカー 通信機器メーカー 携帯端末メーカー 半導体メーカー 医療機器メーカー ユーザー系SI'er 物流企業 量販企業 通信事業者 官庁・公共・各地方自治体 県域FM・コミュニティーFM局		

(数値情報は全て08年6月末時点)

沿革

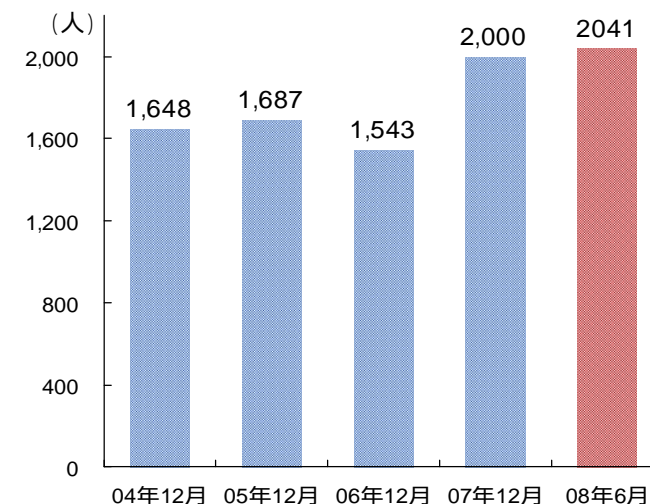


株式の状況

大株主情報

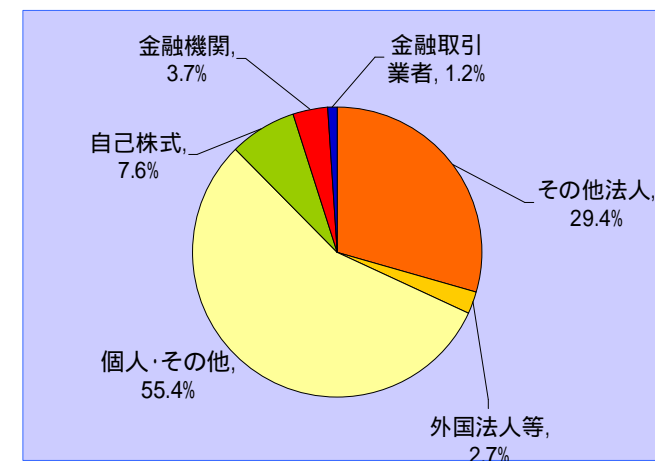
株主名	持株数(株)	持株比率
有限会社 若尾商事	1,155,600	25.56%
株式会社 アイ・エス・ビー	345,167	7.63%
若尾 守保	340,600	7.53%
従業員持株会	189,400	4.18%
竹田 和平	130,000	2.87%
株式会社 第一情報システムズ	80,000	1.76%
株式会社 KSK	61,600	1.36%
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	53,700	1.18%
ロイヤルバンクオブカナダ	48,000	1.06%
ステートストリートバンクアンドトラスト	38,800	0.85%

株主数の推移



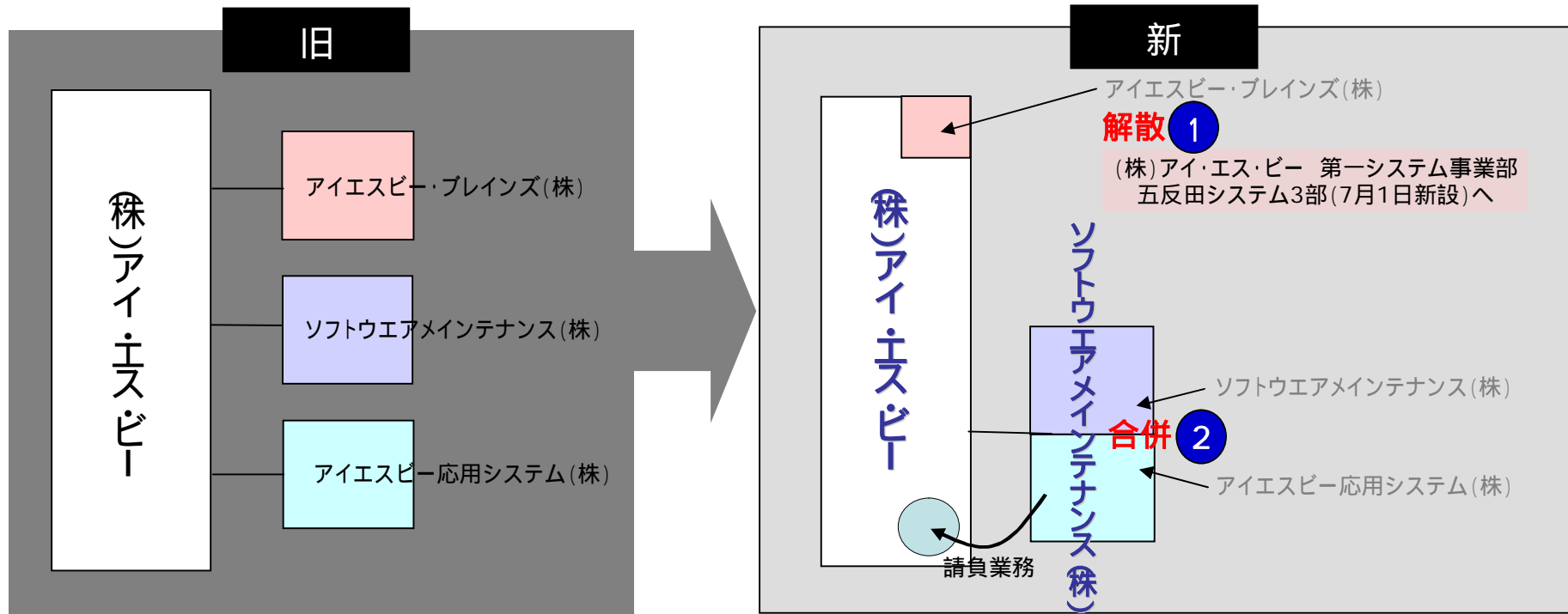
所有者別株式分布状況

	株主数(名)	株式数(株)	株式数分布比率
個人・その他	1,973	2,505,995	55.43%
金融機関	10	168,200	3.72%
その他法人	26	1,328,050	29.38%
自己株式	1	345,167	7.63%
外国法人等	12	120,639	2.67%
金融取引業者	19	52,949	1.17%



(数値は全て2008年6月末日現在)

グループの再編



1

アイエスピー・ブレインズ(株)にて、不採算プロジェクトが発生。同社の技術力により、今後もソフトウェア受託開発の受注は安定的に見込まれるものの、プロジェクト管理体制を早急に立て直す必要がある為、本体(アイ・エス・ビー)に新部所を設置し業務を引き継ぐ。

2

技術者派遣サービスをメインとするソフトウェアメンテナンス(株)とそのウェイトが高いアイエスピー・応用システム(株)を合併させ、一部残っているソフトウェア受託開発などの請負業務は本体(アイ・エス・ビー)へ移管、技術者派遣サービス事業に特化した子会社として一本化。

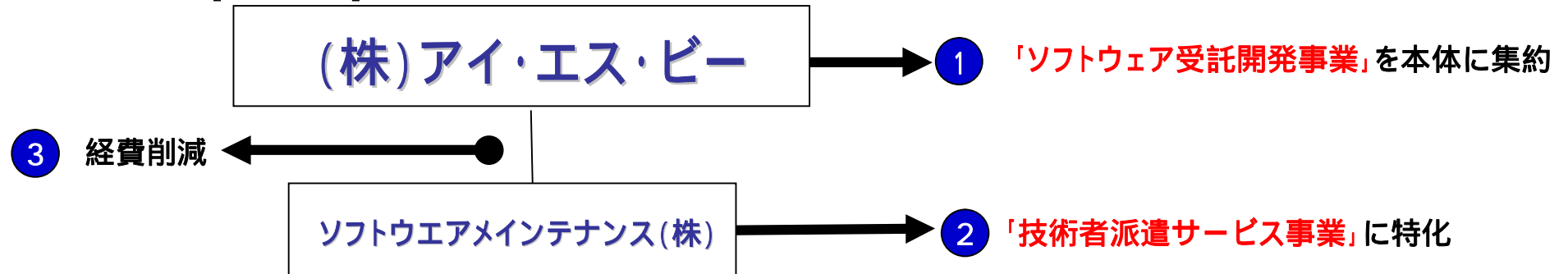
グループ再編のねらい

グループ内での役割の明確化

グループ内リスク管理の徹底

コスト削減

[新体制]



1

- ・ 解散対象子会社アイエスピー・ブレインズ(株)のソフトウェア開発事業(顧客)と技術者を継承
- ・ 事業・技術者を継承する新設の「五反田システム3部」では、本体(アイ・エス・ビー)でのプロジェクト管理手法に準拠して業務を遂行
- ・ 「五反田システム3部」の部長は本体(アイ・エス・ビー)から任命
- ・ 本体(アイ・エス・ビー)の品質保証部の管理職を「五反田システム3部」の課長に任命し、徹底したプロジェクト管理(採算管理)を行う

旧子会社アイエスピー・ブレインズ(株)社員のプロジェクトマネジメント能力の成長

2

- ・ ソフトウェア受託開発等の請負業務が一切無くなり、子会社にて、プロジェクト管理ミスによる不採算プロジェクトの発生は無くなる
- ・ 代表取締役社長は本体(アイ・エス・ビー)の執行役員から派遣(兼務)し、本体との連携を強化

3

子会社の集約により(主に管理部門で)6名人員減、事務所賃貸費低下、その他管理経費低下

↓
販売管理費年間約30百万円低下

関連会社状況（事業系統とシナジー）

ソフトウェア開発の委託
 フィールドサービスの委託

株式会社アイ・エス・ビー

連結子会社

ソフトウェアメンテナンス(株)	
事業内容	技術者派遣サービス
売上高	832百万円
持株比率	100%
代表者	遠藤寛臣
設立	1985年5月
資本金	25百万円
決算期	12月31日
従業員数	88名

派遣サービス事業から生まれるシステム開発案件（顧客基盤拡大）

派遣サービス事業による人材育成

ISB VIETNAM CORPORATION	
事業内容	ソフトウェア開発
売上高	US\$ 968,900
持株比率	100%
代表者	竹田陽一
設立	2003年12月
資本金	US\$ 1,000,000
決算期	12月31日
従業員数	128名

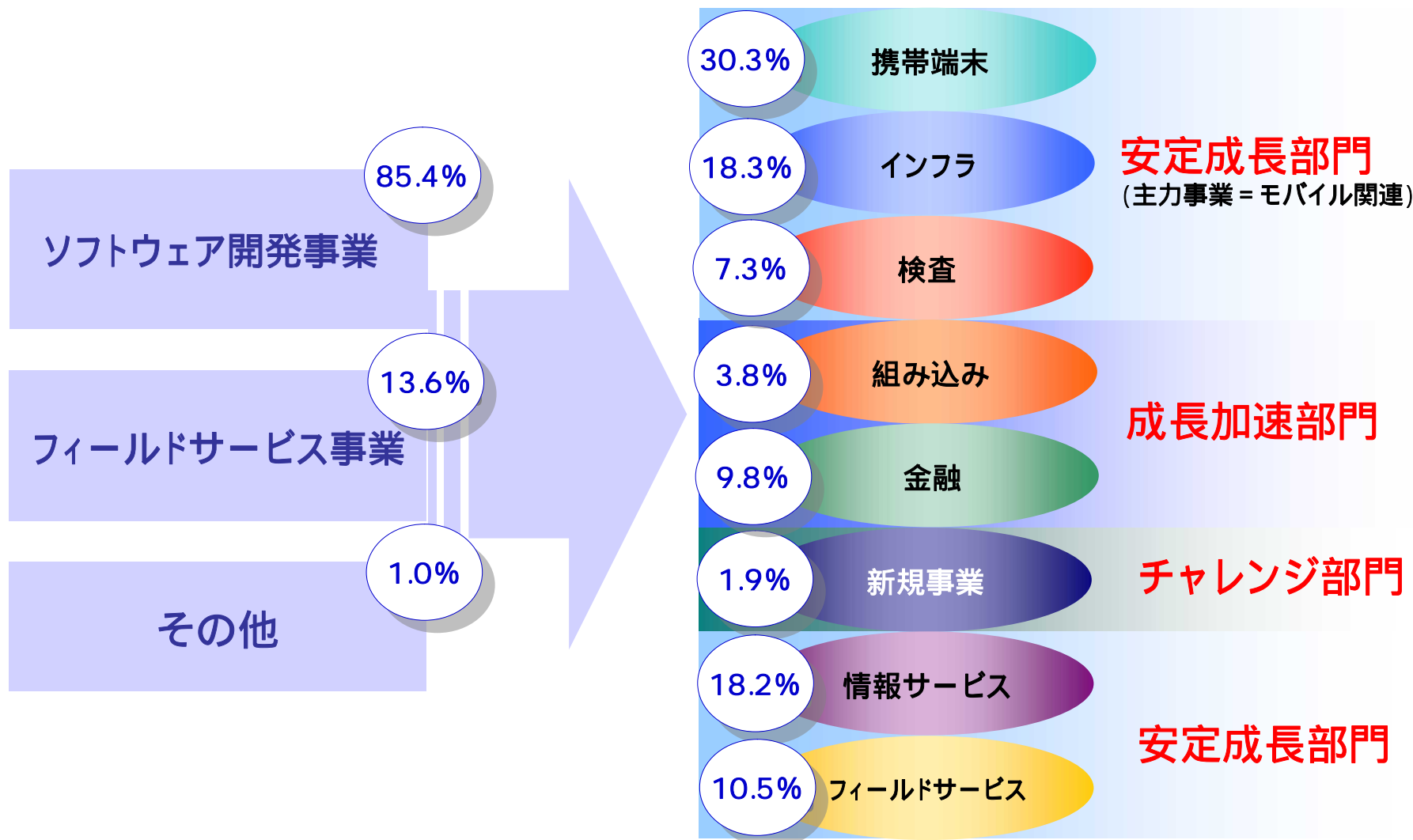
本体事業拡大の後方支援（ソフトウェア開発）

ベトナムの優秀な人材の取り込み

* 売上高は前期07年12月期実績(ソフトウェアメンテナンス(株)の売上高は合併前のソフトウェアメンテナンス(株)とアイエスビー-応用システム(株)の前期実績合計)、その他は08年年8月現在

新収益セグメント

「事業形態別セグメント」から「事業分野別セグメント」へ(2008年12月期より)



図中の%は前期(07年12月期)実績による連結売上高構成比



1. 会社概要
2. 中間決算の説明と今期通期予想
3. 今後の事業戦略および中期経営計画

2008年12月期中間 連結決算サマリー

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
07年12月期中間	6,545	465	486	233
08年12月期中間	6,509	7	11	2
増減額	36	458	475	231
増減率	0.6%	98.4%	97.7%	99.0%
08年12月期中間修正予想	6,350	73	58	55
08年12月期中間期首予想	6,750	380	400	210

不採算プロジェクトの発生により連結子会社アイエスピーレイズ(株)の当期中間営業利益が期首予想に比べ約330百万減少

売上高が修正後予想を160百万円程度上回ったことで、営業利益も修正後予想(73百万円)を80百万円上回る

売上高が修正後予想を上回った要因

本体で売上を上積みできたこと

(08年12月期中間修正予想は08年4月25日リリース済み)

2008年12月期中間 連結損益計算書

単位:百万円	2007/12期 中間		2008/12期 中間		前期比	
	金額	百分比%	金額	百分比%	増減額	増減率%
携帯端末	1,944	29.7	1,630	25.0	314	16.2
検査	381	5.8	528	8.1	147	38.6
インフラ	1,089	16.6	1,096	16.8	7	0.6
組み込み	389	5.9	486	7.5	97	24.9
情報サービス	1,063	16.2	1,100	16.9	37	3.5
金融	607	9.3	872	13.4	265	43.7
フィールドサービス	924	14.1	663	10.2	261	28.2
新規事業	146	2.2	134	2.1	12	8.2
売上高	6,545	100.0	6,509	100.0	36	0.6
売上原価	5,229	79.9	5,612	86.2	383	7.3
売上総利益	1,316	20.1	897	13.8	419	31.8
販売管理費	851	13.0	889	13.7	38	4.5
営業利益	465	7.1	7	0.1	458	98.5
営業外収益	22	0.3	17	0.3	5	22.7
営業外費用	1	0.0	14	0.2	13	-
経常利益	486	7.4	11	0.2	475	97.7
特別利益	6	0.1	91	1.4	85	-
特別損失	20	0.3	35	0.5	15	75.0
税引前当期純利益	471	7.2	67	1.0	404	85.8
法人税等	238	3.6	65	1.0	173	72.7
当期純利益	233	3.6	2	0.0	231	99.1

端末メーカーの撤退や開発費の削減により減少

海外向け機種の実験等により好調

成長加速部門として注力、順調に売り上げ拡大

法令遵守を強化、低採算であるもの等の取引を解消した特殊要因にて減少

連結子会社アイエスピープレイズの影響による減少

研究開発費73百万円(前期比21百万円増)新規業務拡大のため、対売上比1%は投資。

2008年12月期通期 連結業績予想

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
07年12月期 実績	13,084	886	924	466
08年12月期 予想	13,300	450	480	220
増減額	216	436	444	246
増減率	1.6%	49.2%	48.1%	52.9%

(08年12月期予想は08年4月25日修正後の数値)

2007年12月期中間 連結貸借対照表

単位:百万円	07/12期 中間期末	08/12期 中間期末	増減額
流動資産	5,713	5,332	381
現金及び預金	2,264	1,880	384
受取手形及び売掛金	2,070	2,185	115
棚卸資産	614	477	137
固定資産	2,243	2,117	126
有形固定資産	420	401	19
無形固定資産	157	134	23
投資その他の資産	1,665	1,581	84
資産合計	7,957	7,449	508

単位:百万円	07/12期 中間期末	08/12期 中間期末	増減額
流動負債	2,195	2,083	112
支払手形及び買掛金	908	804	104
短期借入金	95	75	20
未払法人税等	214	121	93
賞与引当金	277	293	16
固定負債	873	551	322
純資産(資本)	4,888	4,814	74
利益剰余金	1,679	1,743	64
負債及び純資産合計	7,957	7,449	508

< 前期中間期末からの主要変動部分 >

資産側では現預金の減少。負債側では、支払い債務・未払い法人税等(流動負債)の減少、401k導入による退職給付引当金(固定負債)の減少。

2008年12月期中間 連結キャッシュフロー計算書

単位:百万円	2007/12期 中間期	2008/12期 中間期
営業活動によるキャッシュフロー	513	387
投資活動によるキャッシュフロー	257	44
フリーキャッシュフロー	256	431
財務活動によるキャッシュフロー	143	295
現金及び現金同等物の増加額	112	135
現金及び現金同等物の期首残高	2,146	1,737
現金及び現金同等物の期末残高	2,259	1,873

営業活動によるCFの主要項目

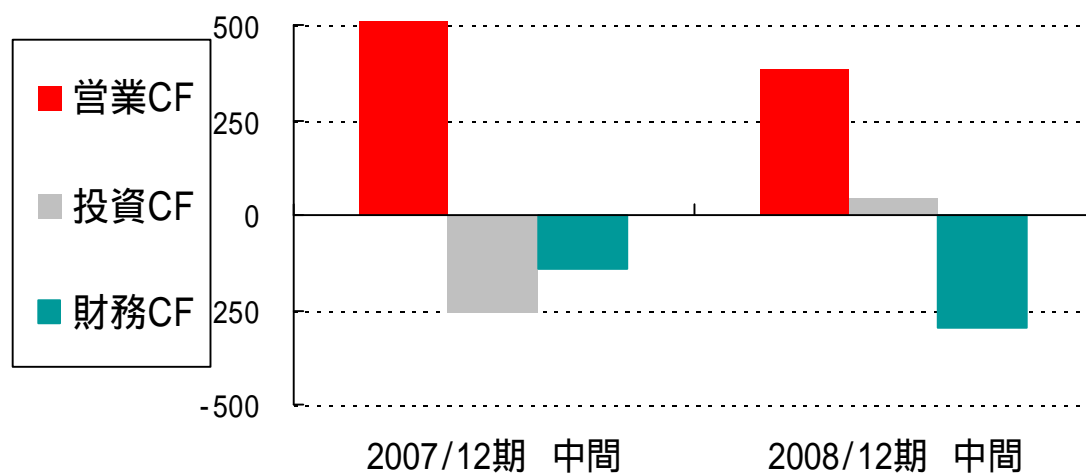
税引前当期純利益	67 百万円
退職給付引当金の減少	614百万円
売上債権の減少	621 百万円
仕入債務の減少	35百万円
長期未払金の増加	255 百万円

投資活動によるCFの主要項目

定期預金の預入による支出	1 百万円
定期預金の解約による収入	301 百万円
投資有価証券の取得による支出	749 百万円
投資有価証券の売却による収入	500 百万円

財務活動によるCFの主要項目

配当金の支払額	170 百万円
自己株式の取得による支出	115 百万円



株主還元について

株主価値・企業価値の最大化に向けて

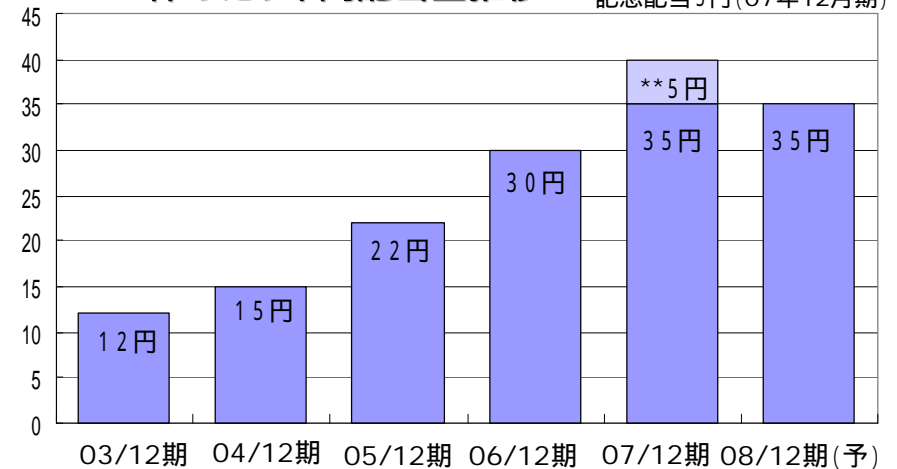
- 事業拡大・利益率向上による時価総額増大
- 内部留保を勘案の上、可能な限り安定した配当を継続していく方針
- 自社株買い

◆ 自社株買い

	株数 (単位:株)	金額 (単位:円)	平均株価 (単位:円)
2007年12月期末までの累計所有株数	216,067	189,222,182	875
2008年12月期	129,100	115,286,300	893
2008年6月末時点での所有株数	345,167	304,508,482	882
2008年6月末時点比率	7.63%		

◆ 一株あたり年間配当金推移

**記念配当5円(07年12月期)



◆ 配当指標

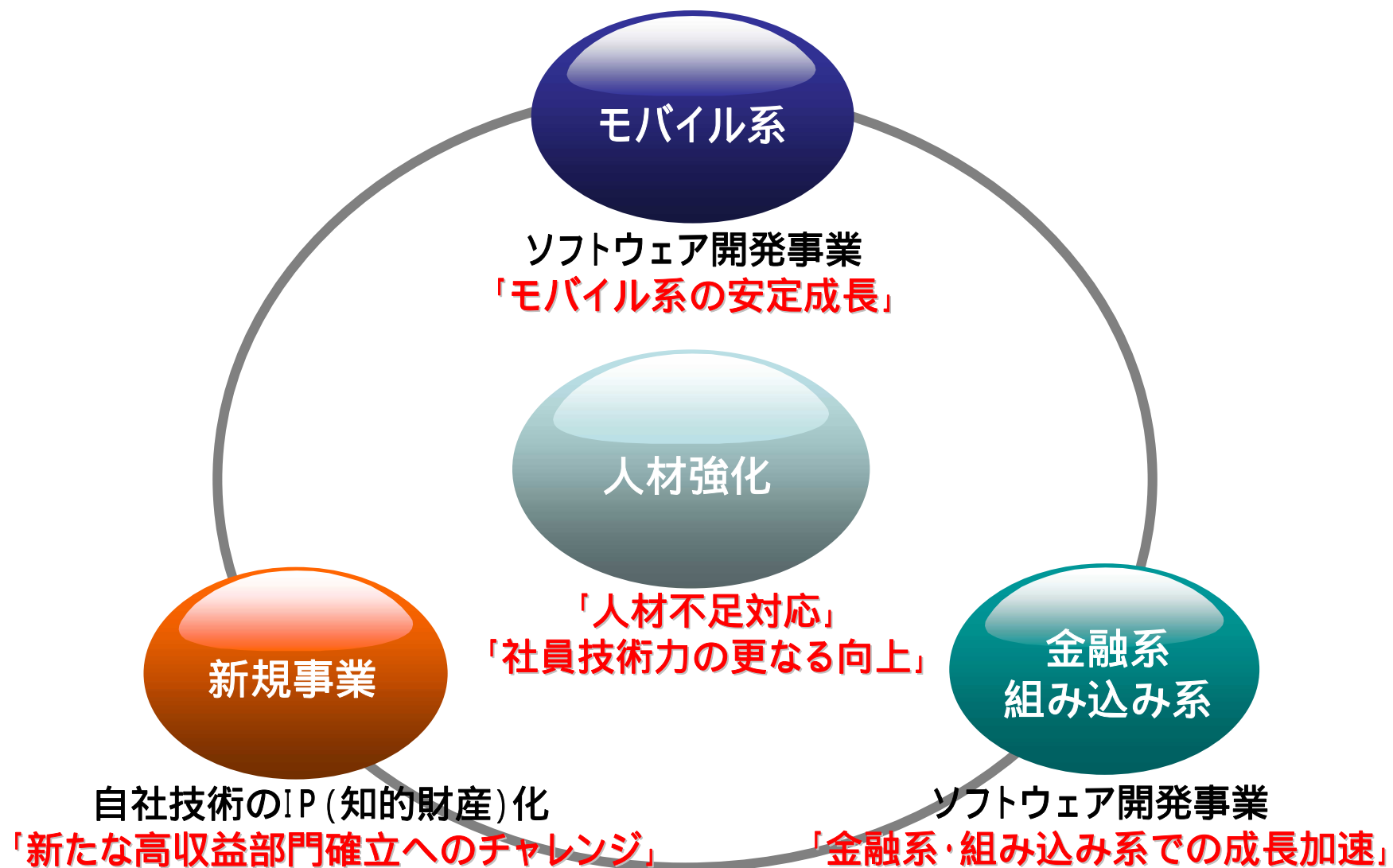
	2008年12月期
一株あたり年間配当金	35円(予定)
配当性向	66.5%(予想)
配当利回り ^{*1}	6.62%(予想)

(*1: 08年8月18日最終値にて計算)

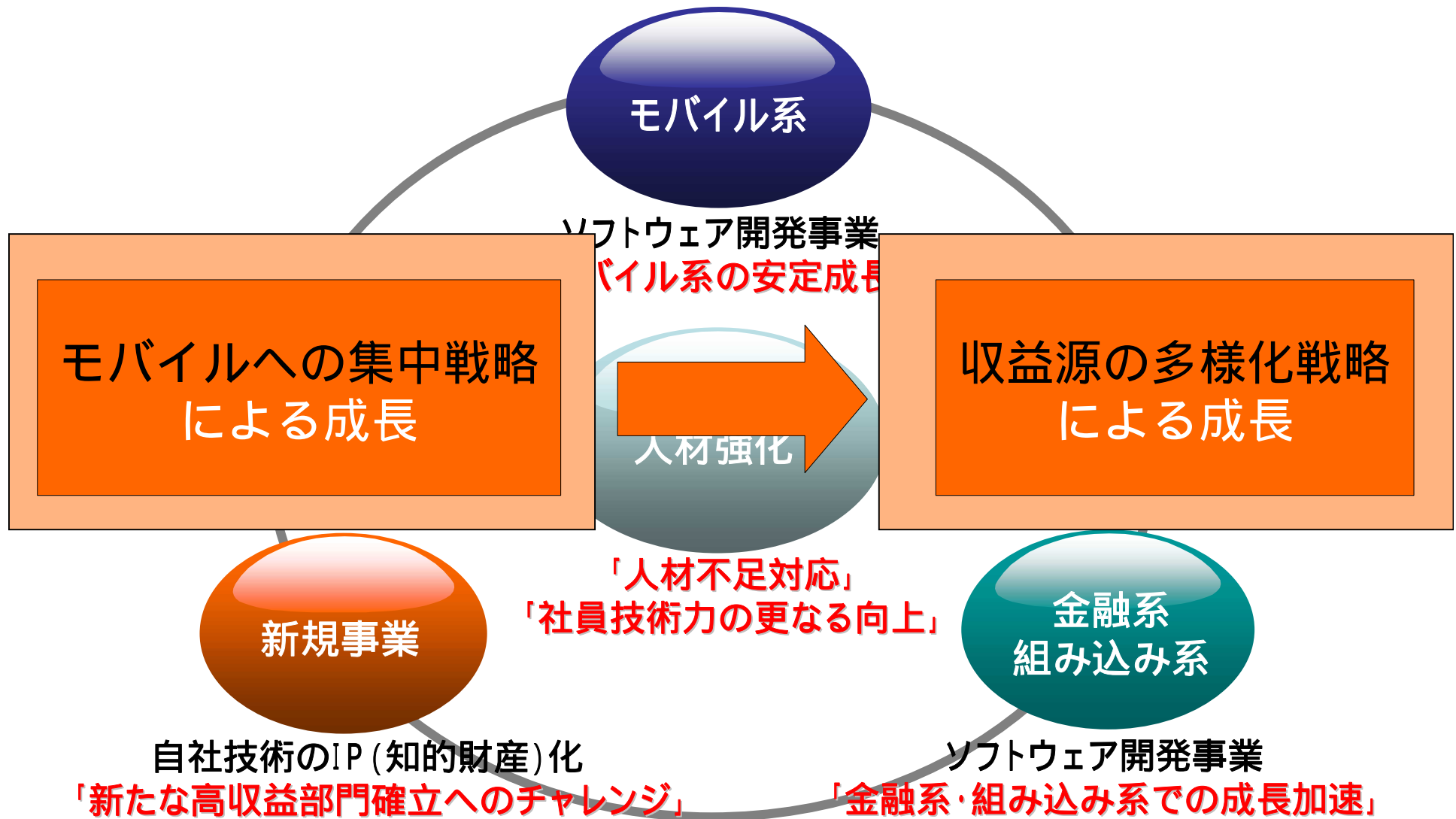


1. 会社概要
2. 中間決算の説明と今期通期予想
3. 今後の事業戦略および中期経営計画

事業拡大のキードライバー

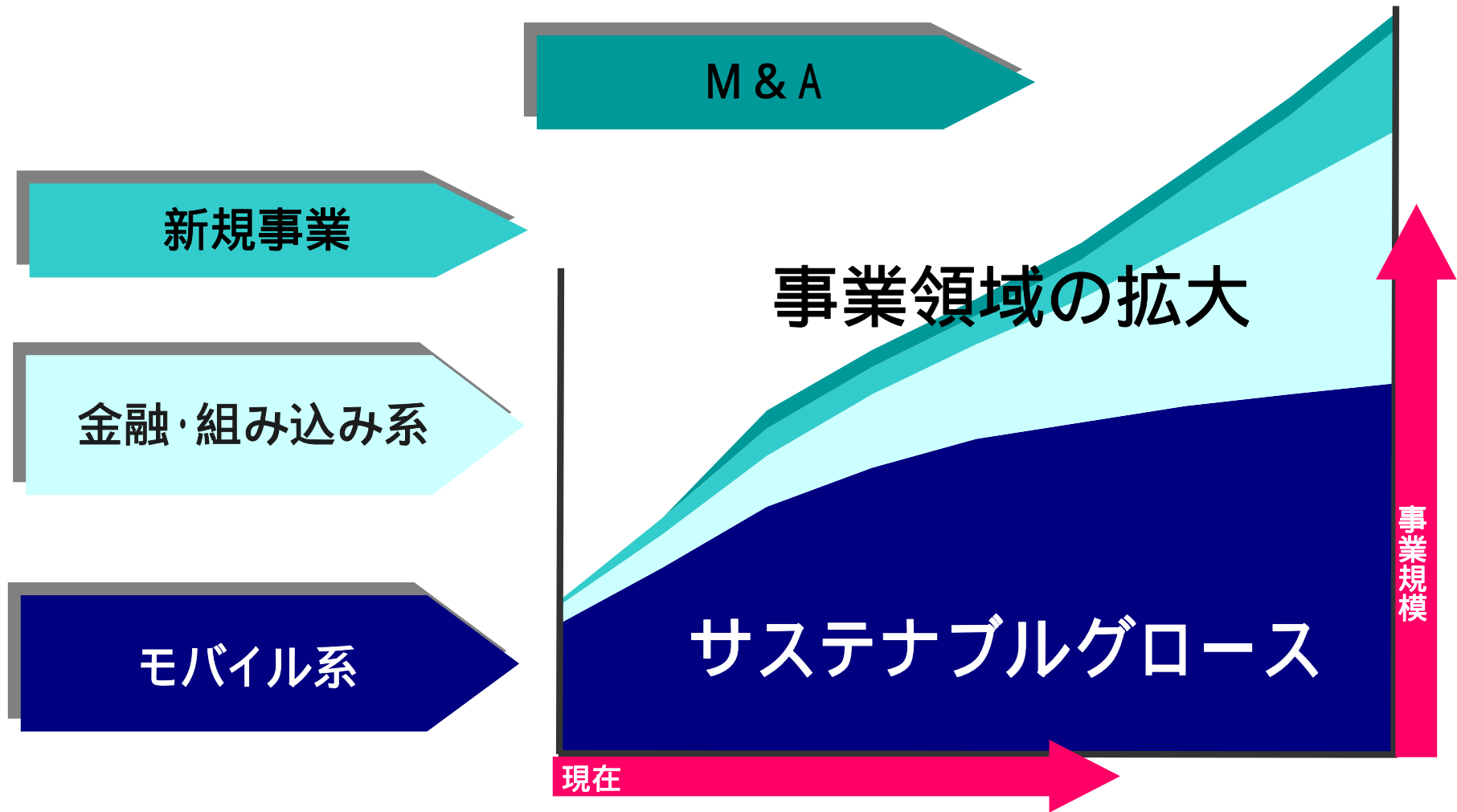


事業拡大のキードライバー





事業拡大のキードライバー



当期中間期末までの状況分析

<p>強み</p> <ol style="list-style-type: none">1. 携帯端末向けソフトウェア開発の技術力と実績2. 顧客基盤 = 大手メーカー (長年の取引実績による当社技術力への信頼と評価)3. ソフトウェア受託開発における多様な開発経験 (開発におけるノウハウ・技術 = 知的財産)	<p>弱み</p> <ol style="list-style-type: none">1. ソフトウェア受託開発におけるプロジェクト管理能力2. 受注業務が中心で、自主事業(自社製品)に関する経験が少ない
<p>機会</p> <ol style="list-style-type: none">1. Symbian Foundation2. モバイル通信方式の更なる進化3. 家電・車載などへの組み込みソフトウェアが高度化4. ベトナム経済成長が再加速	<p>脅威</p> <ol style="list-style-type: none">1. 携帯端末市場の頭打ち感2. 事業拡大に向けての人材不足

SWOT別事業戦略

弱み

1. ソフトウェア受託開発におけるプロジェクト管理能力

請負事業(受託開発)のプロジェクト管理が脆弱であった子会社を発展的解消
子会社はリスクのある外部からの請負事業を一切行わず、技術者派遣事業に集中

2. 受注業務が中心で、自主事業(自社製品)に関する経験が少ない

チャレンジ部門として「新規事業」を展開

プロダクト

アプリケーション

サービス

次世代技術

脅威

1. 携帯端末市場の頭打ち感

モバイル事業の持続安定成長

大手メーカーとの連携強化
国内需要の取込み

海外携帯端末
進出

通信方式の進化が続く
インフラビジネス

成長加速

大手SIとの
アライアンス本格化
金融系

新規事業の
育成

組み込み系
の成長加速

2. 事業拡大に向けての人材不足

ISBベトナムによる
オフショア開発

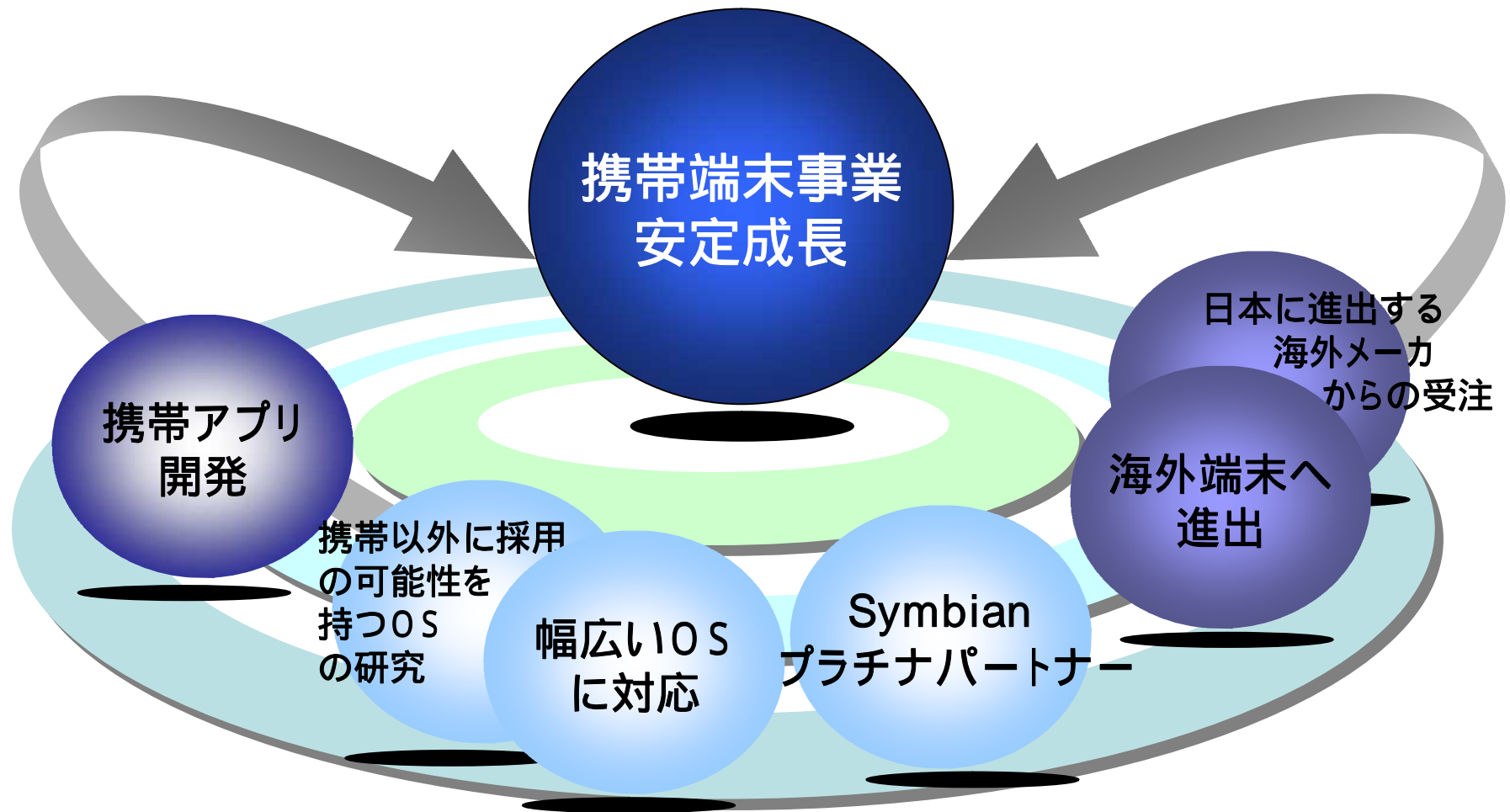
パートナー・協力会社
との連携強化

M & A

SWOT別事業戦略

強み

1. 携帯端末向けソフトウェア開発の技術力と実績



SWOT別事業戦略

強み

2. 顧客基盤 = 大手メーカー
(長年の取引実績による当社技術力への信頼と評価)
3. ソフトウェア受託開発における多様な開発経験
(開発におけるノウハウ・技術 = 知的財産)

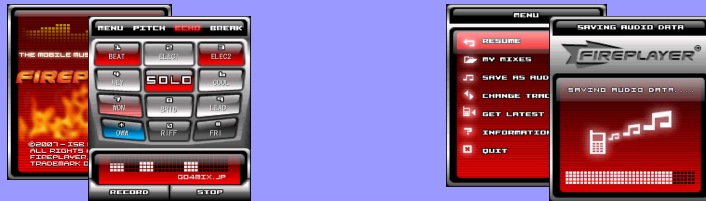
NEC、ソニー
富士通、シャープ、
大和総研……他

新市場創出へ

GO!AMIX

FIREPLAYER

ファイヤープレイヤー (Fireplayer)™ は
携帯電話やPDA等で自分だけの「リミックス音楽」を作成するアプリケーション



複数トラックで構成されるオーディオコンテンツをリミックスして、自分だけのアレンジを楽しむことができます。

ウィルコムに続き本年7月よりソフトバンクからも提供

自社開発プロダクト

SmartFamily { SmartMarkシリーズ
SmartOTST
SmartBRET

SmartBRET™

Smartmark™ Tools

OTST SmartOTST

自社販売 + アライアンス先による販売

既存取引メーカーとの接点拡大・新規顧客獲得の商機創出

SWOT別事業戦略

機会

1. Symbian Foundation
2. モバイル通信方式の更なる進化
3. 家電・車載などへの組み込みソフトウェアが高度化
4. 堅調な成長を持続するベトナム

キャリア・メーカーが参画

共通プラットフォーム構築

2年後無償化

世界シェア60%のSymbianの優位性が更に高まる公算

海外メーカーの日本進出

国内メーカーの海外進出

Symbianプラチナパートナーの当社にとって市場は拡大

高度化に応えることの出来る企業として
需要をアグレッシブに取り込む

2010年頃までは、3.9G (LTE、次世代PHS、WiMAX)
更にそれ以降は4Gとインフラ基地局向け需要は旺盛

デジタル家電

テレビ
レコーダ
DVD
カメラ

白物家電

冷蔵庫
洗濯機
掃除機
オープンレンジ

車載

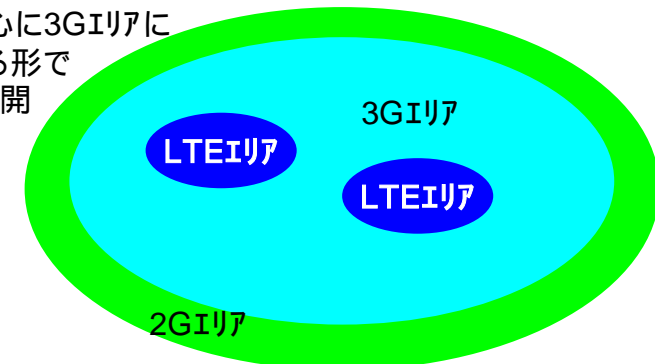
カーナビ
ECU
⋮

OA機器

コピー機
複合機
⋮

2010年以降LTE展開のイメージ

都市部を中心に3Gエリアに
オーバーレイする形で
LTEエリアを展開



日経BP社 [ITpro](#) に掲載された記事(一部抜粋)と写真

アイ・エス・ビーが米Googleの携帯電話向けプラットフォーム「Android」をデモしている。デモの内容は、AndroidのWebブラウザや各種サンプル・アプリケーションをタッチパネルによる操作で試せるというもの。

フィンランドのノキア製「Nokia N810 Internet Tablet」とみられる国内未発売の携帯端末と、米Texas Instrumentsのアプリケーション・プロセッサ「OMAP3430」の開発用ボードに、それぞれAndroidを移植している。

同デモの目的は、OSやミドルウェアの移植技術のアピール。アイ・エス・ビーは、2000年に英Symbianの「Symbian OS」向けソフトウェアの開発に参入。Linux/Symbian OSといった携帯端末OSの各種ハードウェア・プラットフォームへの移植、ソフトウェア開発など、モバイル端末開発事業に注力している。



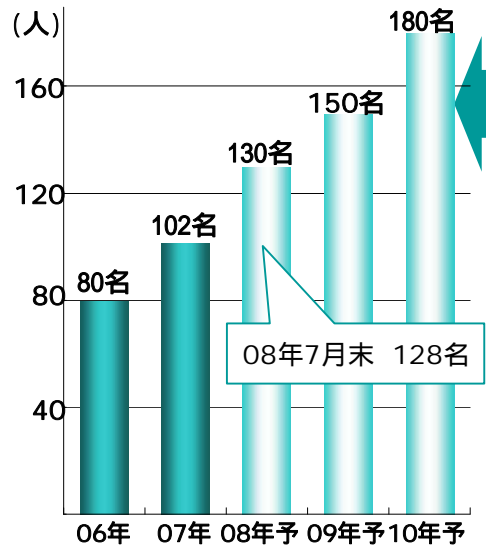
右写真：Androidを移植した携帯端末

多数の来場で活況な当社ブース



ファイヤープレイヤー (Fireplayer)TM のコーナー

海外戦略（ISBベトナム社）



ベトナムのIT政策	IT人材を2020年までに約80万人育成
優秀な人材確保	ホーチン科学大学・ホーチン工科大学との関係強化
事業所規模	07年移転・増床 714㎡ 1,462㎡ 180名収容可能
資本増強	\$ 220,000 \$ 1,000,000 (2007/1/30)

本格的な
グローバル
企業グループへ

アジア・太平洋地域における
IT生産・供給基地
及び営業拠点

- 業務ソリューション
- モバイル系ソリューション
- 現地日系企業向け
ITインフラ構築

オフショア開発対象のプロジェクト
外案件の幅を広げ
プロジェクト規模を拡大

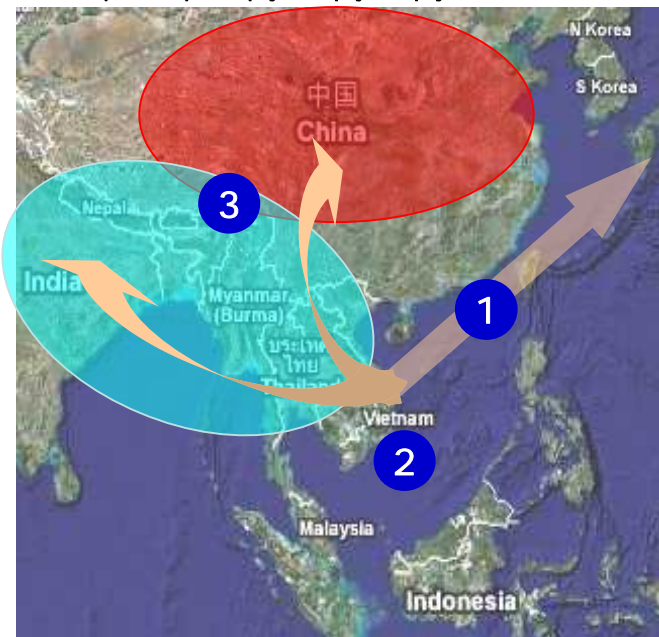
- 更なる人員増強・育成
- リソースの計画的活用
- 各プロジェクトの共通ノウハウ
を横断的に共有

日本で培った得意分野
の技術・ノウハウをベトナムの
ニーズにカスタマイズ

ASEAN・中国・インド向け
IT生産のハブ拠点

ベトナム国内マーケット

日本向けオフショア
開発センター



日本向けオフショア
開発センター

日本向けオフショア
開発センター

海外戦略（ISBベトナム社）

2008年4月「CMMI レベル3」を取得

2008年6月「ISMS(ISO27001)」を取得

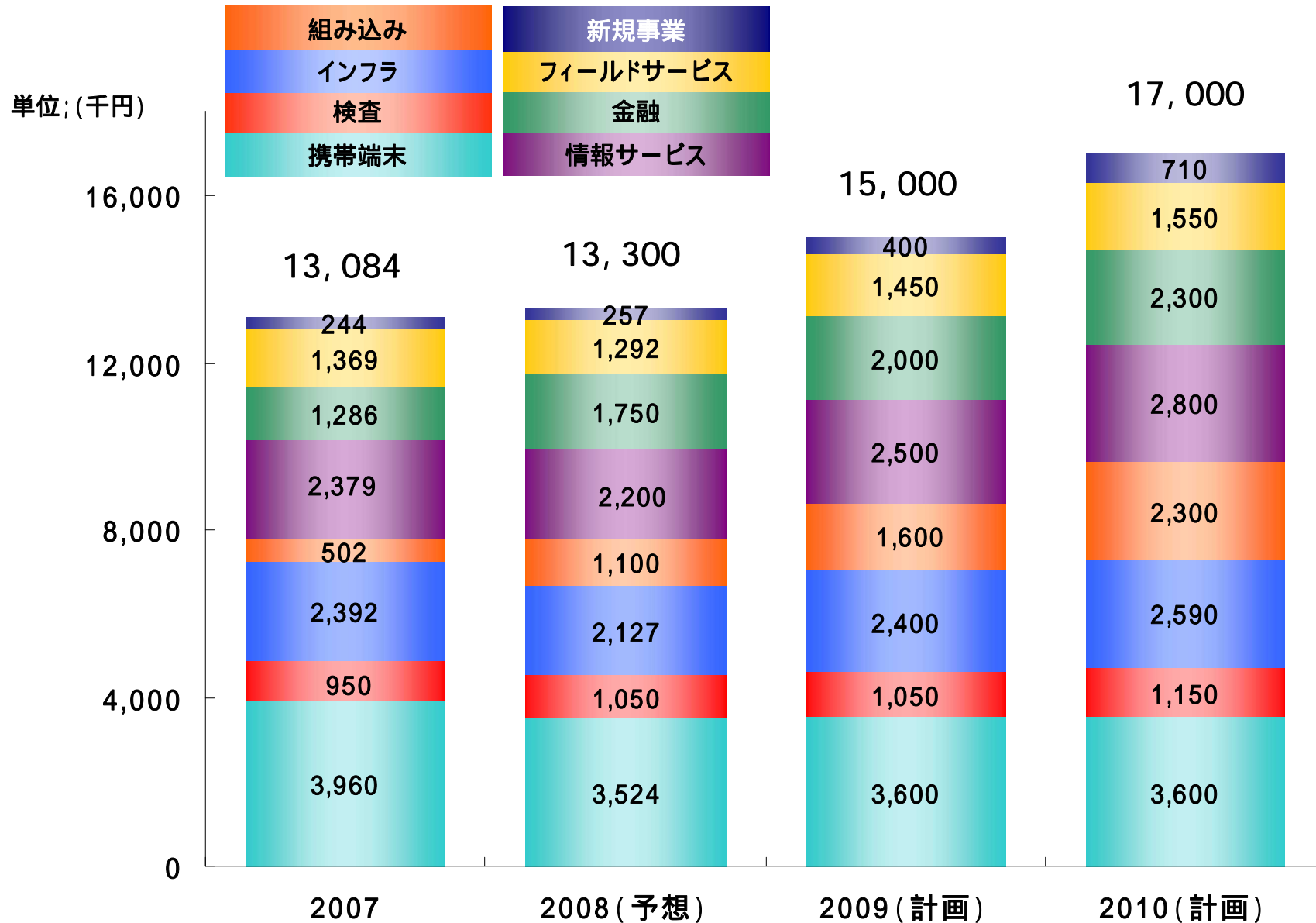
いずれも日系企業で初めて



修正後 3 カ年中期経営計画（連結）

	修正後 2010年12月期 目標	2007年12月期 比較	期首発表 2010年12月期 目標
売上	17,000 百万円	29.9 %増	17,000 百万円
経常利益	1,170 百万円	26.6 %増	1,300 百万円
経常利益率	6.9 %	0.2 ポイント低下	7.6 %
ROE	10.0 %以上	0.5 ポイント 以上向上	10.5 %以上

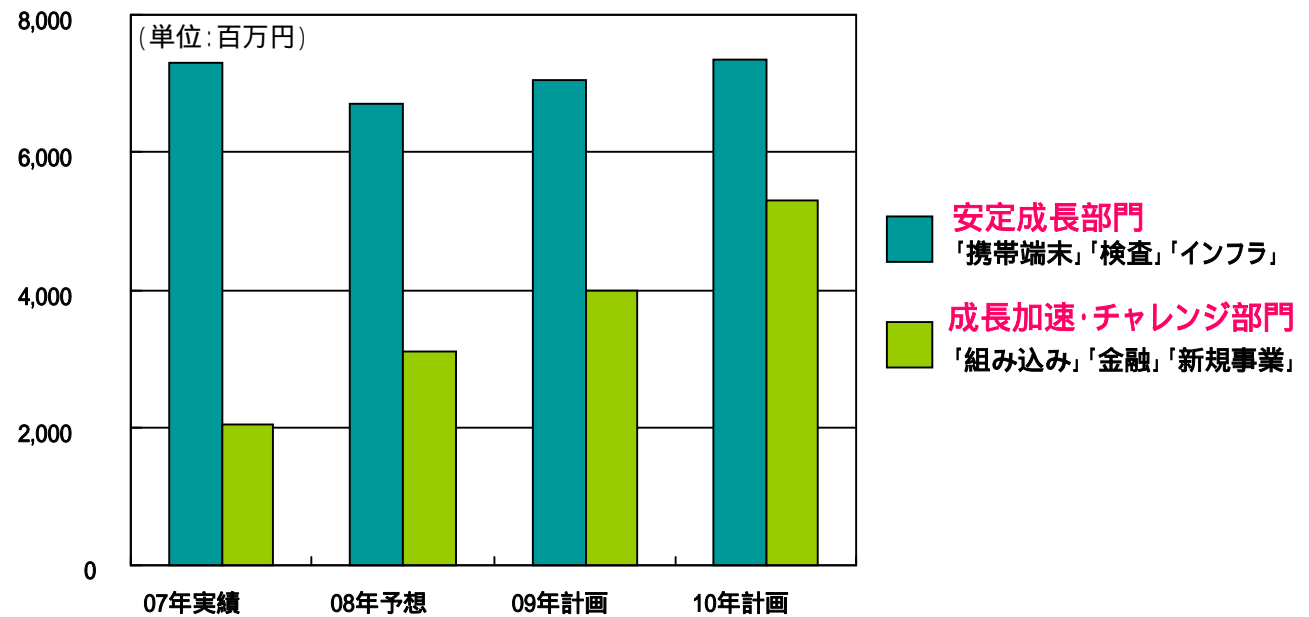
修正後3カ年中期計画 セグメント別売上高（連結）



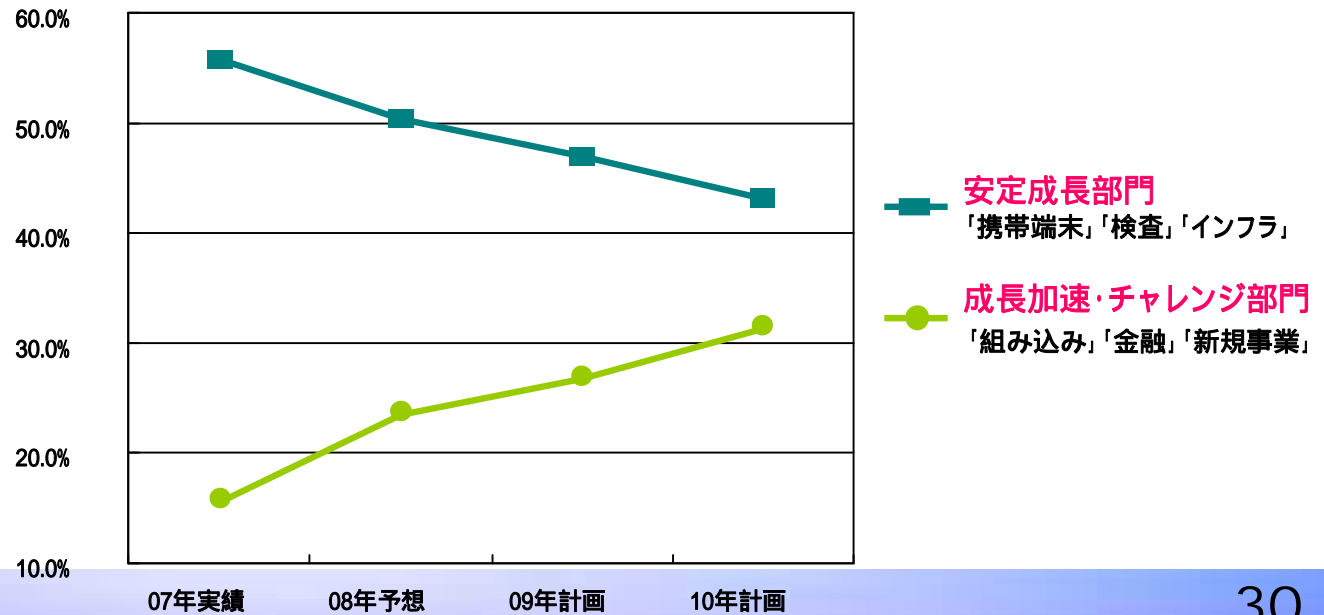
(各年とも12月期通期の数値)

「安定成長部門」と「成長加速・チャレンジ部門」対比

各3セグメント合計
売上高

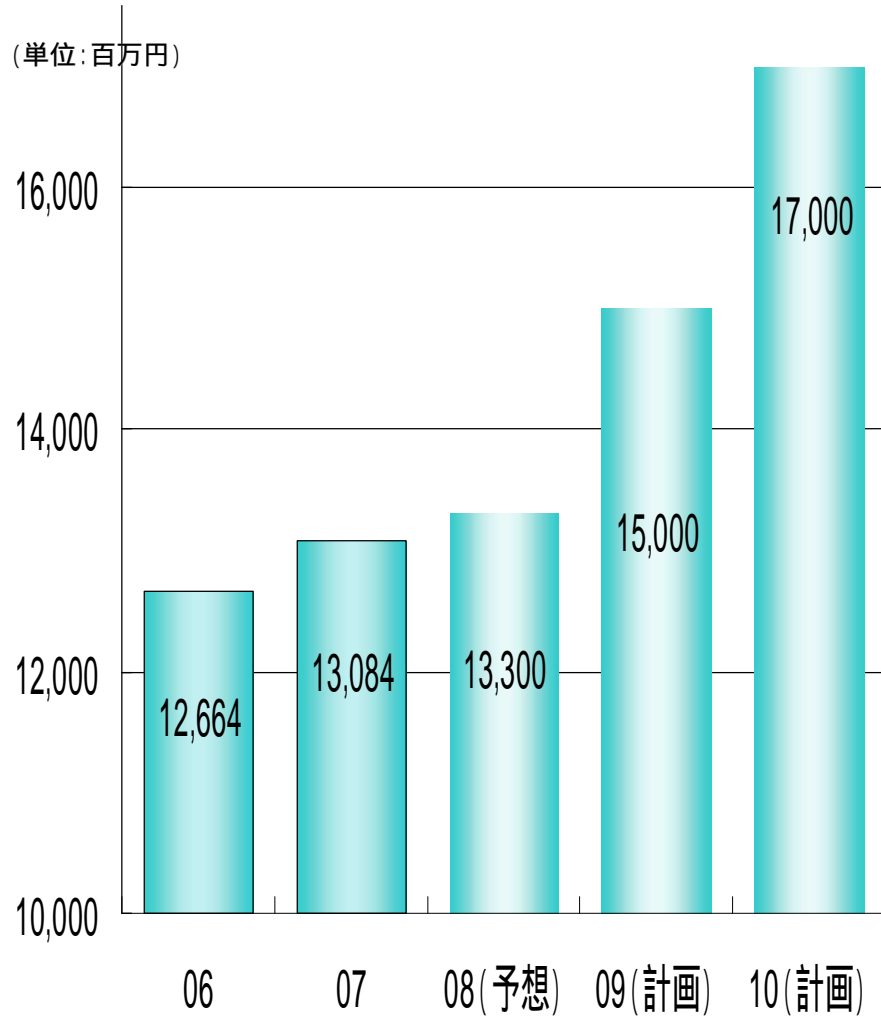


対全売上高
各3セグメント合計
売上高比率



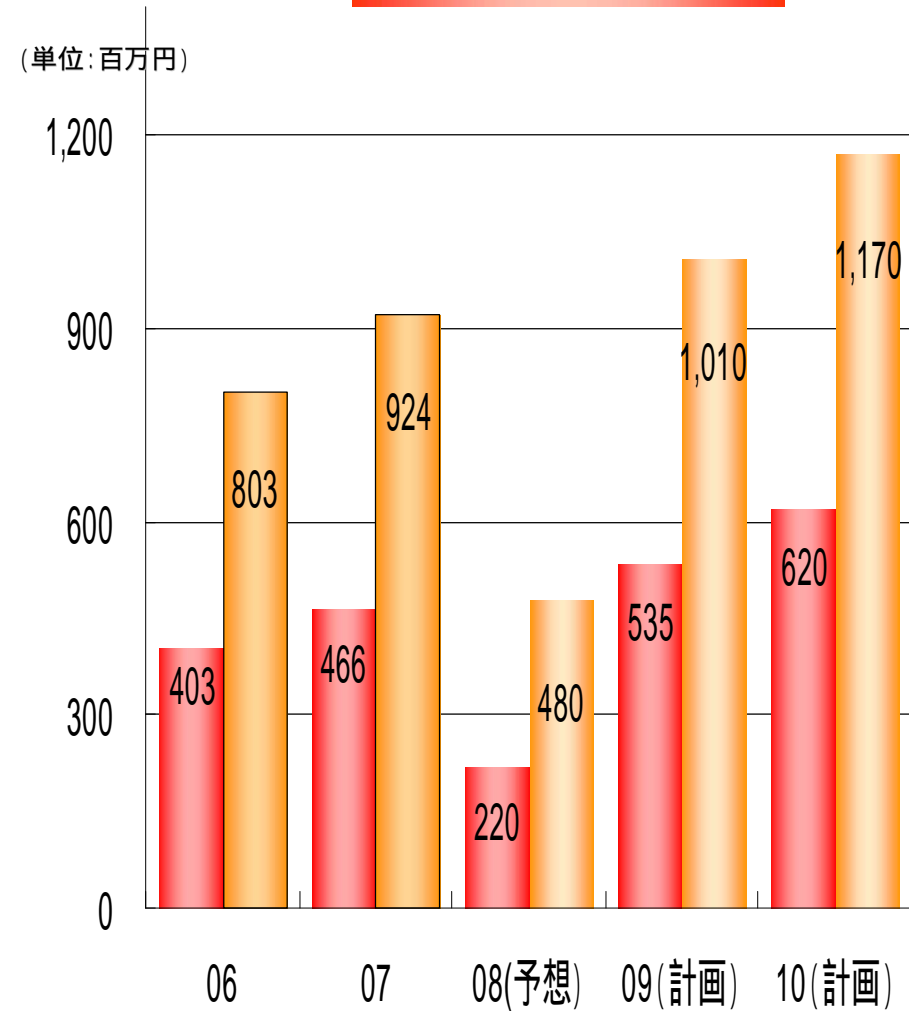
修正後中期3カ年計画（連結）

売上高



経常利益

当期純利益



(各年とも12月期通期の数値、08年は本年4月25日修正後の予想)



本資料は、2008年12月期中間決算の業績に関する情報の提供と、当社に対するご理解をより深めて頂くことを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2008年6月末時点の状況において作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

< 連絡先 >

IR担当 取締役管理本部長 大西 明

Email: ml-isb-info@isb.co.jp

URL : <http://www.isb.co.jp/>

株式会社 **アイ・エス・ビー**